

工学府（博士前期・後期課程）ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

1. 修士課程修了にあたっては、以下の点に到達していることを基準とする。
 - (A) 工学系修士の学位を有するものとして相応しい自然科学に関する基礎知識を備えること。
 - (B) 自らの専門分野について最先端の研究や技術開発に関する知識を身につけること。
 - (C) それぞれの専門領域において独創性の高い研究を担い、使命志向の立場から、持続的な問題解決・研究開発を行う担う能力を身につけること。
 - (D) ①研究成果を専門家の中で発表し、的確にコミュニケーションできる能力を身につけること。②世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけていること。
2. 修士課程にあっては、所定の年限在学し、研究指導を受け、カリキュラム・ポリシーに基づく所定の単位数を修得し、かつ、本学府が行う修士論文審査および最終試験に合格した者に、修士（工学・学術）の学位を与える。
3. 博士課程修了にあたっては、修士課程の到達基準をより高度化するものとする。
4. 博士課程にあっては、所定の年限在学し、研究指導を受け、カリキュラム・ポリシーに基づく所定の単位数を修得し、かつ、本学府が行う博士論文審査および最終試験に合格した者に、博士（工学・学術）の学位を与える。

博士 前期	生命工学専攻	応用化学専攻	機械システム工学専攻	物理システム工学専攻	電気電子工学専攻	情報工学専攻
				電子情報工学専攻		
博士 後期				物理応用工学専修	電子応用工学専修	知能・情報工学専修
A	生命工学の応用・発展に寄与する自然科学・工学の基礎知識を身につける。	関連する分野での学部での基礎知識に基づいて、さらに高度で幅広い専門知識を習得し、その専門知識を土台として幅広い創造力、多様な課題に対する問題解決能力などを身につける。	数学・物理学を中心とした自然科学の基盤的学力の上に、工学系専攻の修士生に相応しいより深い探究心とより高い解析能力とを裏付けとして先端的開発研究に携わることができる学問的応用能力を身につける。	全ての科学技術の根幹をなす物理学分野の専門知識を修得する。	電気電子工学発展に寄与するための応用理論および知識を修得する。	コンピュータ科学・コンピュータ工学の基礎理論に基づき、情報技術のエキスパートとして必要な高度専門知識を獲得する。
B	現存する諸問題の解決に役立つ技術開発を、生命工学分野からのアプローチで行うための、最先端の専門知識・技術を修得する。	新規性、創造性、応用的価値をもつ研究及び技術開発を主体的に進める能力を育成するとともに、研究者および技術者としての高い倫理性を有する。	機械工学の各分野に関する専門的知識をより深めるとともに、多様性に富む学際分野の融合的な研究課題にも対応できる柔軟な思考力を身につける。	多様かつ複雑な学問的な課題に対して、客観的なデータに基づき、論理的に推論を進めて結論を導くための能力を身につける。	先端的な電気電子工学技術が実社会においてどのように活用されているか理解する。	高度な専門知識に基づき独自のシステムを考案する発想力を身につける。
C	研究開発から経済的価値の創出・実用化までのプロセスを立案・実行するための、知識を修得する。	持続可能な社会の実現に資するような先端技術の開発等において指導的な役割を担うことができる。	機械工学の各専門分野において、自ら開発目標を発見し、実験・解析のルーティンを実現化し、考察・議論を展開できるような知的好奇心と洞察力を身につける。機械工学およびその基盤となる理工学に関して最先端技術の開発・発明あるいは画期的な新知見をもたらす研究内容を備えた学位論文を作成する。	未知の課題に対して、物理学的手法を用いて、解決方法を考案し、その具体的方法を自ら企画設計・遂行する能力を身につける。既成の枠にとどまらず、多分野を統合発展させ、新しい分野を開拓する能力を身につける。	自ら計画を立て研究を行い考察・解析・解決出来る能力を身につける。	システムを構築し動作させる設計能力・実装能力、さらに、結果を分析し適切に対処する問題解決能力を身につける。
D	説得力のあるプレゼンテーション、的確なコミュニケーションを行うための能力を身につける。また、これらを国際的な場で行うための語学能力を身につける。	研究成果の論理的説明能力を養成するとともに、国際的な場で活躍ができるためのコミュニケーション能力を身に付けて、国際性を持ったクリエイティブなリーダーとなりうる。	学会等の場で研究成果を発表し、質疑応答を的確に行えるコミュニケーション能力を身につける。さらに、研究成果を国際的に発信するために必要な語学能力および共生科学技術の多様化を担える適応能力を身につけ、社会的責任や倫理に関する理解を深める。	異なる分野の研究者・技術者と意思の疎通を図るコミュニケーション能力を身につける。物理システム工学を展開する際に必要となる国際性を身につける。	①国際的な先端電気電子技術に貢献できるだけのコミュニケーション能力および議論能力を身につける。②自らの研究成果を論理的に記述し、国際社会に対して分かりやすく伝達する能力を身につける。	国や専門分野の垣根を越えて様々な人たちと協働する高度専門技術者として必要な、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける。

工学府（専門職学位課程）ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

1. 専門職学位課程修了にあたっては、以下の点に到達していることを基準とする。
 - (A) 技術経営修士の学位を有するものとして相応しい産業技術開発に関する基礎知識を備えること。
 - (B) 各産業分野の専門性に精通した上での技術経営ができる知識を身につけること。
 - (C) 産業技術開発において競争力のある技術イノベーションを推進する能力を身につけること。
 - (D) ①研究成果や開発提案などを的確に伝えるコミュニケーション能力を身につけること。②世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけていること。
2. 専門職学位課程にあっては、所定の年限在学し、研究指導を受け、カリキュラム・ポリシーに基づく所定の単位数を修得し、かつ、本学府が行う修了審査および最終試験に合格した者に、技術経営修士（専門職）の学位を与える。

産業儀技術専攻

A

技術経営の基礎として習熟すべきコア知識および産業技術イノベーションを強力に推進するための理論的基礎を習得し、産業技術分野に展開する能力と高い倫理観を身につける。

B

技術経営の基礎を習得するとともに、最先端の科学技術に精通し、これを活用した戦略的な研究開発・製品開発を行う技術者、研究者、あるいはこれらを推進・管理・運営する経営者としての素養を身につける。

C

産業のニーズを理解し、技術経営の知識に基づいて産業技術シーズを戦略的に提供できる能力を獲得する。

D

①技術経営の知識に基づいて、産業技術開発に関する的確な質疑応答を行う能力を身につける。
②国際競争力のある産業技術イノベーションを推進できるよう、研究成果の発表などでプレゼンテーションやコミュニケーションを通して語学能力およびグローバルな視点と協調性を養う。